



おはようロスアンゼルス

倫理研究所U. S. A. 南カリフォルニア倫理の会

1月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

Fax: (310) 323-6737

2015年(平成27年) 1月1日(木)

NO. 161

謹賀新年



心の癖を取り去り、勘違いを減らす

(「倫理」743号 特集 公開)

研究発表会から抜粋
倫理研究所専門研究員

高橋 徹

心の壁を取り去ることの意味

最初に、敏雄先生の「現実人生の相(すがた)をそのままに見、そのままに対処する、これを倫理という」という言葉を紹介します。

これは「純粹倫理原論」という著書にある一文です。シンプルな言葉ですが、私たちは現実の人生の相をそのまま見る「ということ」が、なかなかできないのではないのでしょうか。

ふだん、自分を取り巻く日常生活の現実をちゃんと見ていると思っ
ていないかもしれません。でも、そ
うではなく、見えていないことのほ
うが多いのではないのでしょうか。な
ぜ見えていないのか?

それは、自分に自己中心的なと
ころがあり、気がつかない偏見、
先入観があるからです。生まれて

が狭くなっているからです。つま
り、ある意味では自分に都合
のいいことしか見ておらず、
全体を見ていない。奥深くを
見ておらず、部分的にししか物
事を見ていないからです。

こうした事情があるため
に、敏雄先生は「現実人生の
相をそのままに見る」ことを
強調しているのではないでし
ょうか。

また、その後の言葉に「そ
のままに対処する」とありま
す。私たちは、限られた視野
の中で判断し、「こうすれば
いい」と決めつけて、自分な
りのやり方で行動する場合が
あります。そうすると、自分
が良いと思ったことでもな
かかと思いつきに進まない。
逆にいろんな問題が起きる場
合があります。そういう意味
で、「そのまま対処する」こ
ともなかなかできていない。
このように「そのまま見
る、そのまま対処する」こと
は一見簡単なように見えて
も、それ自体が深い意味を持
っていて、ちゃんと見る、素

直にそのまま対処することの
大切さを指摘してくれている
ようです。

倫理(純粹倫理)というの
は簡単なようであるが、奥が深
い。倫理を素直に実践してい
くためにはどうしたらいいの
か、そのために障害になつて
いるものは何なのかというこ
とを考えた時に、今日のテー
マである「心の壁」に突き当
たります。

あたり前のことが間違いだらけ
(中略)

最初に結論的なことを申し
上げます。「われわれは年を
経るにつれて、知らず知らず
のうちに社会通念や常識にと
らわれて生きるようになる。
その「とらわれ」と、それ
に基づいた行動にどれだけ自分
の生命エネルギーを無駄遣い
しているのだろうか? 生活の
中で(勘違いによつて無駄に
しているエネルギー)に気づ
き、この無駄遣いをやめれ
ば、われわれはそのエネルギ
ーをもっといきいきと日々を
生きるために振り向けること
ができるのではないだろう
か」。(以下略)

門園美枝子さんが、読後
発表し、皆さんに是非読んで
頂きたいと勧められました。

やさしい口調で、倫理の教
えが楽しく理解できます。
.....

藤崎正剛部長のご出張

一月九日(金) オフィス
午後七時~九時

倫理ビジネスネットワー
ク勉強会

一月十日(土) オフィス
午前十時~十二時

純粹倫理勉強会
一月十一日(日) オフィス
午前八時半~九時半

朝の集い
午前十時半~十二時

お雑煮会・懇親会
午後一時半~三時

ニューガージェナホテル
倫理セミナー

「自立の始まり」
↑反抗は大人への第一歩

倫理セミナー
「自立の始まり」
↑反抗は大人への第一歩

日時 一月十一日(日)
午後二時半~三時

所 ニューガージェナホテル

お友達を誘ってお出でくだ
さい。

お友達を誘ってお出でくだ
さい。

お友達を誘ってお出でくだ
さい。

▲おめでふじふじつごます

『しきなみ』十二月号

群策集 (西東京・海外)

一席 松永典子

待ちにまち月下美人の咲く深夜吐息聞こゆる白き花びら

【評】月下美人の花の精に陶酔。詩的な構成を心掛けておられるのか美意識、詩眼が光っている。

二席 草野律子

母の味求めて毎日手入れするぬか床今日は塩の足りぬか

【評】日本の家庭に糠床は消えつつあるのに作者は米国住い。そのことに驚きつつ、うれしくもあります。良い歌です。

入選 ホン史子

争いの途絶えぬ国の選手らの平和な戦いワールドカップ

入選 門園美枝子

責め心我も持ちきを省みる一筋雲の延びゆくを追う

清泉集 (西東京・海外)

三席 飯田隆

他人よりも自分を変える切り換えのスイツチ探して楽しい職場

『秋津書道』十二月号

競書

六席 梅本豊造 高等部 (東京)

入選 咲田静子 々 々

入選 堀井幸江 々 々
一席 脇山由希 一般部 (東京) 行書
三席 前田グレース 々 (々) 々
入選 草野律子 々 (々) 々
入選 ノリスてるみ 々 (東京) 楷書

師至易
南カリフォルニア 脇山由希

1席 脇山 由希

勢いがあるって気脈の通った好作品。

師至易
南カリフォルニア 前田グレース

3席 前田グレース

字形よく整い、大らかに書かれている。

しきなみ短歌

会うことも声聞くことも未だ無きに心の通うブラジルの友 草野律子
あちこちにたえまなく涌く水のみ場ポートランド市は水の都よ 摺木洋子
我が子らの偽りのない無邪気さに心の疲れ吹き飛んで行く 松元依子
紅葉とセメントの白の対象が眼に焼きつく秋の風物 滝川歌子

肌寒き朝の目ざめはさわやかに一日の始まる秋日和かな 奥本洋子
千魃の続く大地は今日も晴れ草木は萎えて雨を待ちわぶ 杉野和子
目前にくつきり現わる霊峰富士両手を合わせ歓声あがる 長谷川公子
裏庭で月とすすきと私が線で結ばる今宵この時 塩出笑子

空を切るアオキのバットにため息がもれるわが家のリビングルーム 伊澤潤子
友からの同窓会の写真見て僕の彼女は今でも美人 飯田隆
若き頃仕事仕事と家庭など顧みぬ吾を支えし妻よ 梅本豊造
富有柿数多熟して照りに照り精気に満ちた四十年の古木 梅本和子

腰痛で庭の手入を怠れば我が物顔にはびこる草が 門園美枝子
抱き上げてミルクをやれば目を閉じて吾に体重を預ける幼な子 ホン史子
一本のか細き糸に操られ風に乘る風青空に映ゆ 松永典子

しりとりをしよう息子にさそわれて語彙の多さに驚くばかり 尾崎よしみ
ナベーラ (ヘチマ) の蔓を茅葺き馬小屋根に這わせ黄花の咲く日々楽し 与那覇寛雄
花ひらく白き吐息の月下美人ワイン片手に見守る夜半に 森田のりえ
曇りなく清けき音の広がりて那智の大滝目の前にあり 矢口裕司